

平成30年度 観桜会

借行社事務局

平成30年4月4日、靖國神社で昇殿参拝の後、靖國會館田安・玉垣の間で観桜会が開催された。

若木事務局長の司会で進行し、まず挨拶に立った冨澤理事長は、「散る桜、残る桜も散る桜」という句を紹介しつつ、散る桜がどのように生きるかということが肝心と述べ、「これからは（借行社で役員として）働くことは若い人に任せて、この散る桜がこの会で大いに楽しむ、それがこの会の繁栄のもとになると考えております」「（役を降りたら）もうこの会に来ないというのではなく、歳を取った方々が大いに集まって楽しむ、そういう会にしたいと思っております」と挨拶された。

続いて、ご来賓のつばさ会岩崎茂副会長、航空幕僚監部総務部長荒木哲哉空将補からご祝辞を頂き、他のご来賓18名と法人賛助会員7社8名の紹介されたところで、小田原潔衆議院議員が到着され、ご祝辞を頂いた。

その後、山谷えり子参議院議員、佐藤正久参議院議員、宇都隆史参議院議員、陸上自衛隊東部方面総監住田和明陸将からの祝電披露と続き、水交会の齋藤隆理事長による乾杯をもって懇談

に入った。

懇談の途中、陸士50期の堀江正夫様が、借行社を引き継いだ元自幹部に対する感謝と期待の言葉を述べられ、さらに、国のために命を捧げる唯一の団体である自衛隊が、名称はどうあれ、軍としての地位を認められることへの念願、防衛予算の問題、天皇陛下と自衛隊との関係が終戦後のままになっていくことへの憂慮等を語られた。

続いて、帝國纖維株式会社代表取締役社長白岩強様から、日本の経済事情に関する力強くユーモアを交えたお話を頂戴した。

恒例の軍歌演習は、陸士61期小倉健男評議員の指揮で「借行百年」「陸軍士官学校校歌」「陸上自衛隊幹部候補生学校校歌」「加藤隼戦闘隊」の4曲を全員で唱和し、大いに盛りあがった。最後に、隊友会久能雄二常務執行役の音頭による一本締めで、観桜会は締めくくられた。

